

# 2024平和行動 in 長崎

と き : 2024年 8月 8日 (木) ~9日 (金)  
と ころ : 長崎県長崎市内 (長崎県立総合体育館、平和公園ほか)  
参 加 : 連合岐阜 7名

## はじめに

長崎の原爆投下から79年を迎えるにあたり、8月8日から9日までの2日間にかけて開催された「2024平和行動 in 長崎」に参加した。連合岐阜からは7名を派遣し、連合愛知および連合三重とともに行動に参加した。酷暑を極める暑さであったが、特別な日を迎える被爆地で原爆犠牲者を悼むとともに、参加者は平和を願う思いを一つにし見聞を深めることができた。

## 1. 被爆79年「連合2024平和ナガサキ集会」(8/8 長崎県立総合体育館) ～語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で核兵器廃絶と恒久平和を実現しよう～

高藤義弘連合長崎会長によって開会され、芳野友子連合会長が主催者を代表して登壇した。また、大石賢吾長崎県知事、鈴木史朗長崎市長が来賓あいさつに立たれたほか、国際労働組合総連合 (ITUC) のリュック・トリアングル書記長より連帯のあいさつが述べられた。

また、被爆者の訴えでは、97歳を迎える築城昭平氏の語り部があり、長崎大学核兵器廃絶研究センター長の吉田文彦氏からは、「地球の健康/人間の健康 そして核廃絶」と題し基調講演があった。「ナガサキ・ユース代表团」や「高校生平和大使」による若者からのメッセージが読み上げられた後、平和アピールの採択、そして9月に予定される平和行動 in 根室に向けてピースフラッグリレーで締めくくられた。



被爆者 築城昭平氏の語り部



高校生平和大使の皆さん

## 2. 長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典 (8/9 サテライト会場：出島メッセ長崎)

サテライト会場にて参加し、原爆犠牲者を追悼し祭壇に献花を手向けた。長崎市長による「長崎平和宣言」では、日本政府に対し、核兵器禁止条約への署名・批准が一日も早くなされるよう求めるとともに、核戦力拡大により国際緊迫度を増す緊張の緩和と軍縮に向け、より一層のリーダーシップを求めた。

また、被爆者代表による「平和への誓い」では、国外で核兵器の使用に対し緊張が高まるなか、地球上の危機であると強く訴えつつ、核廃絶を世界中の最重要課題として願い、「平和は人類共有の世界遺産である」と誓いを述べられた。



### 3. 連合ピースウォーク（8/9 平和公園および爆心地付近）

「連合ピースウォーク」では、連合長崎のスタッフ（地域協議会、青年委員会、女性委員会）の方々によるガイドのもと、浦上天主堂遺壁や地層断面などの原爆の爪痕や、平和祈念像、平和の泉といった慰霊施設をめぐり、原爆や戦争の惨禍にさまざま思いを致した。原子爆弾落下中心地碑ではメンバーで献水し祈りを捧げた。



### 4. 万灯流し（8/9 浦上川付近）

水を求めて亡くなられた原爆犠牲者の鎮魂と平和への祈りを捧げるため、浦上川で万灯流しが行われた。参加者はそれぞれ平和への願いを書き添えてロウソクに火を灯し、浦上川の川べりに並べていった。



### おわりに

これまでも写真パネルや講話など見聞きしていたことはあったが、今回の平和行動に初めて参加させていただき、あらためて原爆について知ることができた。と同時に、その爪痕や戦禍の数々に衝撃を受け、戦争の悲惨さを思い知った。

広島や長崎では原爆によって罪のない幾多の命が一瞬にして奪われ、また被爆者や遺族らは語りつくせぬ苦しみとこれまで闘い続けてきた。過去の戦争がもたらした凄まじい被害だけではなく、他方で残酷な加害行為があったことの反省も忘れてはならない。いずれにせよ戦争に正義はない。

連合長崎をはじめ、被爆伝承を絶やすまいと平和活動に取り組む、長崎大のナガサキ・ユースの皆さん、そして「ピリョクだけどもリョクじゃない」と被爆の発信を続ける全国の高校生平和大使の皆さんの真っすぐなまなざしに心を揺さぶられた。今を生きる私たちが、核兵器廃絶、世界恒久平和に向け、正しく知り、伝え、そして行動していかなければならないと思いを強くした機会となった。